

規準関連小委員会第1回議事録(案)

1. 日時 平成15年6月11日(水) 15:00-18:00

2. 会場 主婦会館プラザエフ 8F パンジー

3. 出席者(五十音順、敬称略)

梅原秀哲、橋本親典、入矢桂史郎、上野 敦、梅沢健一、江口和雄、大磯義和、小川洋二、長田光司、鎌田敏郎、北後征雄、黒井登起雄、新藤竹文、須田 勤、武若耕司、椿 龍哉、浜田秀則、溝淵利明、森濱和正、山本孝一、渡辺敬一

4. 配布資料

1-1 規準関連小委員会第5回議事録(案)

1-2 土木学会コンクリート委員会規準関連小委員会委員構成(案)

1-3 コンクリート標準示方書[規準編]の今後の方針

1-4-1 「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と試験方法の今後の動向」および「コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題」に関する講習会の開催について(会告原稿)

1-4-2 講習会予算に関する計算書

1-5-1 電気泳動によるコンクリート中の塩化物イオンの実効拡散係数試験方法(案)

1-5-2 浸せきによるコンクリート中の塩化物イオンの見掛けの拡散係数試験方法(案)

1-5-3 実構造物におけるコンクリート中の全塩化物イオン分布の測定方法(案)

1-5-4 塩化物イオン拡散係数試験方法検討部会作成原案への意見に対する回答

1-6 エポキシ樹脂塗装鉄筋用塗料の品質規格

1-7-1 技術シリーズ「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と試験方法の規準化の今後の動向」目次(案)

1-7-2 技術シリーズでの図表・写真・式番号

1-7-3 今後規準化が望まれる試験方法の現状「3.2.1 細骨材の吸水率試験方法」

1-7-4 「3.2.2 粗骨材の強度, 乾湿繰返しに対する安定性試験方法」

1-7-5 「3.2.3 コンクリートの断熱温度上昇試験」

1-7-6 「3.2.4 コンクリートの熱膨張率試験」

1-7-7 「3.2.5 透気試験方法」

1-7-8 「3.2.6 透水試験方法」

1-7-9 「3.2.7 クリープ試験方法」

1-7-10 「3.2.8 硬化コンクリートの引抜き試験方法」

1-7-11 「3.2.9 打音法による部材厚および欠陥の評価試験方法」

- 1-7-12 「超音波によるコンクリートの非破壊試験方法」
- 1-7-13 「3.2.11 電磁波法による鉄筋位置の評価方法」
- 1-7-14 「3.2.12 コンクリートにおける標準的 AE 計測方法」
- 1-7-15 「3.2.13 サーモグラフィによる構造物表層部欠陥の評価試験方法」
- 1-7-16 継続教育 (CPD) プログラム認定申請書
- 1-8-1 コンクリート構造物用断面修復材の試験方法 (案)
- 1-8-2JSCE K 561-2003 コンクリート断面修復材の試験方法 (案) への質問と回答
- 1-9 規準関連小委員会ホームページ WG 活動方針 (案)

5. 議事

- (1)資料 1-2 に基づき、各委員の自己紹介が行われた。
- (2)前回議事録の確認を行い、承認された。
- (3)資料 1-3 を用いて、梅原委員長から示方書規準編と本小委員会の今後の方針に関して、2007 年版規準編に掲載するための作業および本年 9 月開催の講習会に向けての作業などが説明された。

(4)講習会について

梅原委員長から資料 1-4-1 および 1-4-2 を用いて、講習会の開催案内、当日のプログラムおよび参加費について説明があった。説明の概要と議論の結果決定した方針は、以下のとおりである。

- ・講習会開催案内およびプログラムは、学会誌 7 月号に掲載予定である。
- ・講習会名は、「「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と規準化が望まれる試験方法の動向」および「コンクリートからの微量成分溶出に関する現状と課題」に関する講習会」と改め、資料 1-4-1 の表題、6.のテキスト名およびプログラムの第 1 部後半の表記を修正する。この修正は、梅原委員長が資料 1-4-1 の原稿校正時に行う。また、プログラムの開会挨拶は、「第 1 部・・・」の前に出すこととし、この修正も、梅原委員長が校正時に行う。
- ・講習会参加者は、本小委員会、武若委員の作業部会および坂井委員の作業部会の他に 180 名を目標とし、各委員は参加者を集める努力を行う。
- ・発表者に対しては、当日使用する発表用資料について、溝渕委員が連絡を行う。
- ・7 月末または 8 月初旬に委員会を開催し、進捗状況を確認する。
- ・講習会第 1 部午前の司会は、徳島大学上田先生にお願いする。第 1 部午後の司会は、橋本幹事長にお願いする。第 2 部の司会は、坂井委員に決めて頂くこととし、溝渕委員から坂井委員へ司会決定の依頼を行う。

- ・講習会当日の昼休みに本小委員会と武若委員の作業部会の合同会議を開催する。

(5) 塩化物イオンの拡散係数試験方法について

武若委員より、資料 1-5-1、1-5-2 および 1-5-3 を用いて、塩化物イオン拡散係数試験方法および全塩化物イオン分布の測定方法について説明があった。説明および議論の概要は以下のとおりである。

- ・前回議事録（資料 1-1）の(6)を受け、それぞれの試験方法で得られる塩化物イオンの拡散係数を明確に区別した。各拡散係数の定義は、各試験方法に明記し、記号も区別した。

- ・解説文中では、それぞれの拡散係数の相関を示すこととするが、実際にどの拡散係数を用いることが施工編の記述にあうものであるかを検討する。

- ・全塩化物イオンに関する用語は、JIS および示方書に定義されているものとした。これらの定義には、多少不合理な面があるため、今後、統一した用語の定義が必要である。

- ・資料 1-5-4 の意見 No. 浸 44 を受け、記載内容を修正した。

- ・これらの 3 試験方法に関しては、現在計画中の規準関連小委員会ホームページでの公開および技術シリーズへの掲載の他に、土木学会論文集への投稿が武若委員に依頼された。

(6) エポキシ樹脂塗装鉄筋に関する試験方法について

武若委員より、資料 1-6 を用いて、エポキシ樹脂塗装鉄筋に関する試験方法について説明があった。説明および議論の概要は以下のとおりであった。

- ・これらの試験方法は、大別すると、鉄筋の品質規格・試験方法と塗料の品質規格・試験方法からなっている。

- ・従来からの試験方法のフォーマットを統一したものおよび内容を見直したものがあり、新規に作成したものもある。

- ・これらの試験方法に関する講習会は、11月10日に予定されている。このため、原案を7月の常任委員会へ提出することとなっている。

- ・JSCE-E 112-2003 については、規準名として適切かどうかを梅原委員長が検討する。

- ・新規に作成した規準名には（案）をつける。文章を修正したものやフォーマットを変更したものには（案）をつけない。

- ・各委員は、各試験方法に関する意見を6月30日までに武若委員へ送る。前年度の委員会で鋼材・補強材担当であった樁委員、入矢委員には特に意見をお願いする。

(7) 断面修復材の試験方法について

江口委員より、資料 1-8-1 を用いて、断面修復材の試験方法について説明があった。説明および議論の概要は以下のとおりである。

- ・資料 1-1(7)にある材料学会による比較試験では、曲げタフネスについては JCI の方法が明解であり、線膨張に関しては JIS 法と埋込み型ゲージによる方法は同等の試験結果とな

る。

- ・曲げタフネスの試験方法には、JCI 法を採用し、この規準番号は現在 JCI で作業中である。
- ・寸法安定性および線膨張率には、埋込み型ひずみ計を用いた方法を併記した。
- ・JIS A 1107 は記載内容が、コア (A1107) と、はり (A1119) に分かれたため、引用規格を修正する必要がある。
- ・各委員は、6月20日までに、意見を江口委員に送る。(特に、前回から記載内容が変更となっている、5.6、5.9 および 5.10 を重点的に読む)

(8) ホームページについて

鎌田委員より、ホームページ WG 活動方針案およびホームページの内容案が説明された。説明および議論の概要は以下のとおりである。

- ・規準編に関しても、5年ごとの改訂となるため、その間の規準の制定・改訂情報などはホームページで公開する。
- ・土木学会規準は、本ホームページ上で閲覧できるようにし、JIS 等の関連規準に関しては、制定や改訂情報を掲載し、規格協会や JISC のホームページへのリンクを設定する。
- ・本委員会の議事録も公開する。
- ・現在審議中の規準についても公開し、質問や意見を寄せて頂く形式とする。
- ・鎌田委員は、本日の議論を受けて、活動方針案を再度作成する。

(9) 技術シリーズについて

資料 1-7-1 を用いて、溝渕委員より、9月の講習会に使用する技術シリーズについて説明があった。議論の概要は、以下のとおりである。

- ・技術シリーズの題名は、「コンクリートの塩化物イオン拡散係数試験方法の制定と規準化が望まれる試験方法の動向」に改める。修正は、溝渕委員が行う。
- ・本文中に「序」を入れる必要がある。梅原委員長は「序」を執筆する。
- ・「はじめに」は、塩化物イオンの拡散係数試験方法に関する内容と、規準化が望まれる試験方法の動向に関する内容を含む形で作成する。前半の塩化物イオン拡散係数に関しては武若委員が執筆し、後半の規準化が望まれる各試験方法に関しては溝渕委員が執筆する。全体のとりまとめは溝渕委員が行う。
- ・3.3 の原稿については、横田前委員に再度お願いする。
- ・「3 . 試験方法の規準化の今後の動向」は、「3 . 規準化が望まれる試験方法の動向」に修正する。
- ・3章では、各担当委員が作成した State of the art の原稿を掲載するが、各原稿を取りまとめて1つの章としたため、章、節、項の番号や、図表、数式、写真の番号を資料 1-7-2 のように変更した。

- ・各試験方法をまとめた担当委員は、各自の執筆箇所を確認し、特に、文中に引用している章、節、項番号を、新規の番号に修正する。また、図表などで不鮮明なものは修正する。
- ・溝渕委員は、各原稿のファイルを、担当者に送付し、各担当者は上記のチェックを行い、7月22日までに、溝渕委員へ返送する。

(10)WG メンバー構成について

本小委員会に設置される4WGのメンバー構成を以下のとおり決定した。

・ホームページWG

鎌田主査、上野委員、大磯委員、長田委員、新藤委員、須田委員、黒井委員

・講習会WG

杉山主査、溝渕副主査、坂井委員、武若委員、入矢委員、栗田委員、原田委員

・補修材料WG

宮川主査、江口委員、小川委員、北後委員、須田委員、浜田委員、渡辺委員

・微量成分WG

坂井主査、杉山委員、浜田委員、渡辺委員

(11)次回委員会日程

7月29日(火) 11:00～14:00

(12)次回議事録担当

次回の議事録は、小川委員にお願いする。

以上：文責 上野敦